

# 仮想化によるシステム統合の効果

**計算処理能力**

- CPU負荷の大きな共有メモリアプリケーション
- スレッドアプリケーション (OpenMPやPthreadsなど)

**大規模メモリ空間**

- 大規模メモリを必要とするワークロード
- 少ないコア数で、大きなメモリ空間を利用
- 複数ノードのメモリを利用

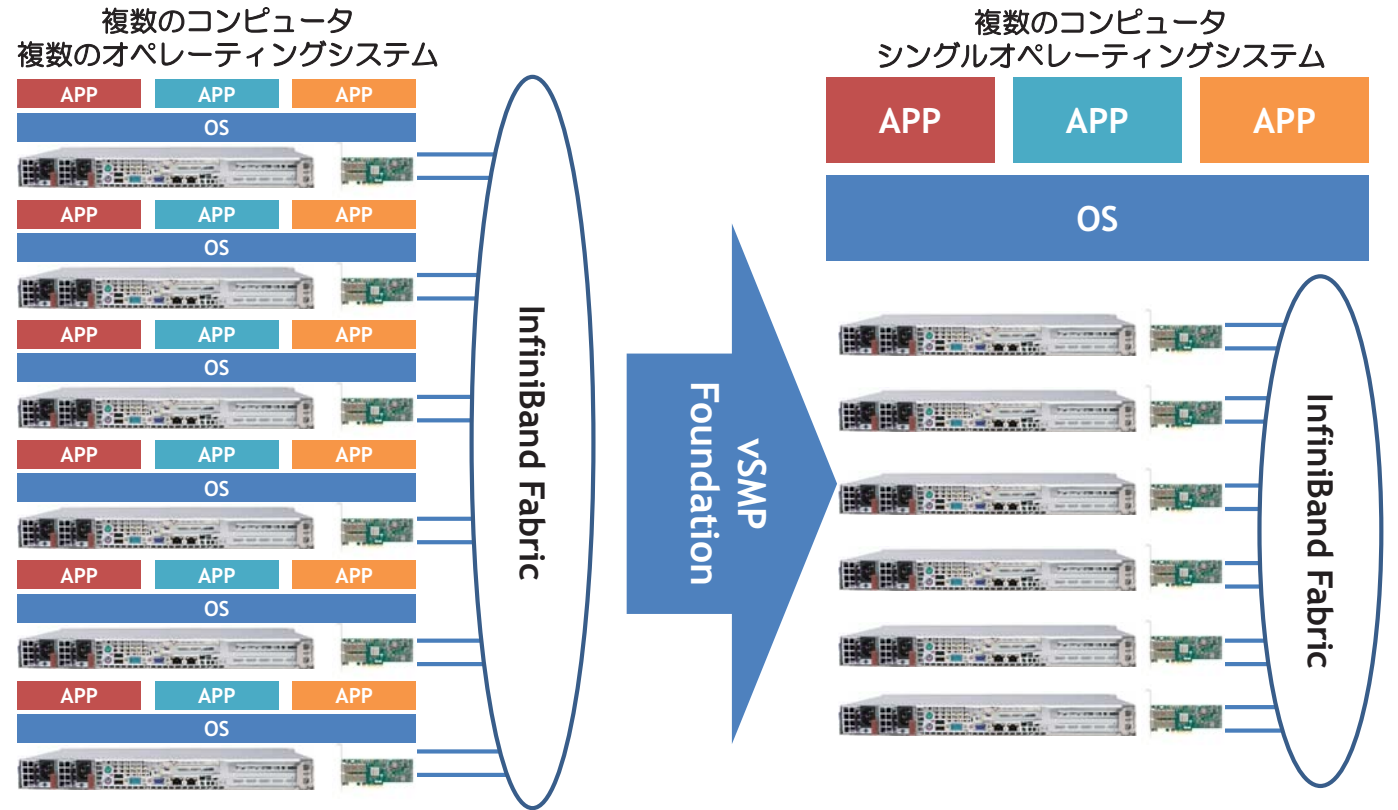
**I/O処理能力**

- I/O負荷の大きなワークロード処理
- 少ないコア数で、大容量のファイル処理を行う
- メモリをI/Oのバッファに利用して速度向上を図る
- メモリファイルシステムの利用

**システム統合**

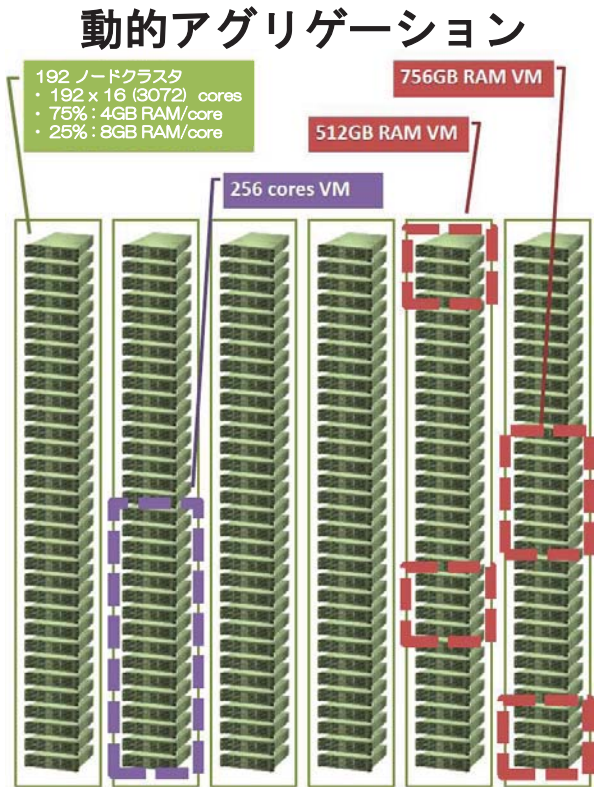
- システム運用とアプリケーションの実行をよりシンプルに....
- リソースを統合することで運用・管理を容易に
- アプリケーションの実行手順をより簡便に

# vSMP Foundation 仮想化



# vSMP Foundationによる オンデマンドプロビジョニング

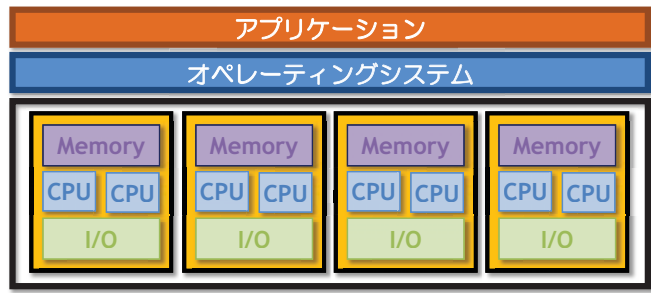
- 利用環境
  - 単一のハードウェアインフラ
  - アプリケーションに合わせてシステムを再構成可能
  - ノード毎のプロビジョニングを動的に実行
- 運用管理
  - クラスタ環境での保守サービス
  - クラスタ利用と同じように必要なリソースに合わせてSMPシステム利用のリソース管理が可能
- 費用
  - 必要なハードウェアはクラスタシステム構築に必要なもので十分



# VM構築オプション

## システム拡張

- プロセッサとメモリ、I/Oをスケラブルに拡張可能
- スケラブルなアプリケーション性能
- 様々なAPIでのアプリケーション実行



## メモリ拡張

- ノードのメモリだけをVM拡張
- 少ないコア数で大容量のメモリ構成が可能
- メモリファイルシステム利用による高速I/O処理

